

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Content includes 0172500274, 有限会社ナカジマ, グループホームボランの家, 北海道余市郡余市町大川町8丁目11番地, 令和8年1月16日, 令和8年3月3日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ボランの家の理念「毎日、笑顔のある暮らし。ここで安心して生きることを楽しんで貰いたい。」を実現する為、どうしたら喜んでいただけるのかを其々の方から聞き取る事から始めています。その結果、ホーム内に居る時間が長いので、季節に合わせてお花見、サクランボ狩り、お祭り、紅葉ドライブなどの外出をしたり、近所の散歩などをして楽しんで頂いております。冬は外出が厳しいので室内レクリエーションや筋力低下を防ぐ為体操やりハビリをしています。他にはお一人おひとり、自室で編み物やTV鑑賞など各自好きな事を充実した生活が出来る様に心掛けています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL address: https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_022\_kan=true&JigyosyoCd=0172500274-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 4 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Content includes 合同会社 mocal, 札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501, 令和 8年 2月 10日.

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は日本海に面した果樹栽培と漁業が盛んな余市町の一角に位置しています。医療機関を母体として運営しており、介護、看護の両面で利用者を支える体制を整え、利用者のみならず家族、職員の安心感が得られています。地域とは相互の行事で交流があり、家族からは常に信頼が寄せられ共に利用者を支える関係を構築しています。一日限りのラーメン屋を開店し、お揃いの黒のTシャツに赤いバンダナ姿で正油味・塩味・味噌味のラーメンが暖簾の中から利用者のもとに運ばれて美味しく食している姿が家族通信に載っています。桜や紅葉鑑賞、果物狩りや外食など多様な外出行事を企画立案しており、理念にある「笑顔ある暮らし」の実践に努めている「グループホームボランの家」です。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 main columns: 項目, 取組の成果 (ユニット1, ユニット2), 項目, 取組の成果 (ユニット1, ユニット2). Rows 56-62 describe various service outcomes and their evaluation.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価 (ユニット共通)	
			実施状況 (ユニット1)	実施状況 (ユニット2)	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日笑顔で楽しく暮らして頂けるように、利用者様其々が何が楽しいのかを聞き取りながら外出やレクなどを計画している。一人一人の好きな事をして過ごして頂く。	利用者様が安心して日常生活を送れるように声掛けの際は言葉遣い、声のトーン、目線の高さなどに気を付けながら楽しい雰囲気作りを心掛けています。	令和4年に法人の変更があり、新たな理念を作り上げ、事業所内の掲示やパンフレットへの記載などで内外に基本的姿勢を示しています。利用者が笑顔で安心して生活できることへの支援を謳っており、会議の中で実践できているかを確認しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナやインフルエンザに注意しながら、区会の野球バスツアーの参加やゴミ拾い、ご近所の草刈りや雪かきを手伝っている。区会の方に声を掛けて避難訓練に参加して頂いています。	感染症の状況を考慮しながら区会の野球ツアーやクリーン運動などの行事へ参加を通し関わりを増やして行っています。	職員は、地域密着型サービスの事業所として地域のイベントには積極的に参加をしています。利用者は、散歩がてら小学校の運動会を見学したり、ボランティアによる朗読会や民謡・三味線の演奏会で心地良い刺激を受けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	スタッフ間で研修を行い、今後に備えている。	現在は感染症防止のため難しいが、認知症などに関する研修を内部で行い、今後に備えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	暮らしのお便りで日々の様子を見てもらったり、運営会議で報告している。意見に関してはスタッフに周知している。	前回の会議からの出来事を報告。会議内で出た意見に関しては職員に周知し実践に生かしている。	会議は、関係者の参加を得て定期的に開催しています。利用者の現状や職員の活動状況、行事やヒヤリハット・事故内容等を報告し、その後利用者を含むメンバー全員の発言を促し、意見や情報を得ています。家族の提案により、介護ロボットの導入に至っています。	メンバーから意見を引き出し、業務改善や職員の活動意欲に反映していますが、家族のさらなる理解や参加拡大を視野に入れて、運営推進会議録を送付する意向ですのでその取り組みに期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村で行われた介護ロボット研修会に参加	市町村企画の介護用品展示会や説明会に参加している。	案件により施設長が行政担当部署を訪れたり、運営指導やケースワーカー、介護保険認定調査、運営推進会議における各担当者の来訪時には情報を共有し、課題解決を図っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転落防止の為、必要な場合のみ家族の同意を得て行っている。現在は居ない。	身体拘束該当者は現在いないが、身体拘束をしないケアを継続的に実践するため、職員会議や内部研修において身体拘束に関する学習の機会を設けている。	身体拘束廃止を基本としていますが、やむを得ない案件が生じたときは職員間で協議をし、利用者や家族の同意を得てからとしています。職員は、2か月ごとの適正化委員会や年4回の研修会に加え、上司からの助言により正しい理解に繋げケアに生かしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の内部研修を年に2回行っている。	年2回内部研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価（ユニット共通）	
			実施状況（ユニット1）	実施状況（ユニット2）	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットを活用して学んでいる。	職員会議や、資料などを共有し学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、運営規定、契約書を家族に渡して了承を得ている。	重要事項説明書、運営規定、契約書を通しご家族の理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時に本人と家族にここでどうしたいか、生い立ちを確認しケアプランに反映している。	入所時に出来る限りご家族のお話を伺ったり、入所後、利用者様の生い立ちなどをお伺いする調査票に、ご家族の要望を書く欄を作りケアプランに反映しています。	入居時に利用者や家族の生活に対する意向を把握していますが、関わりの中でも常に聞き取りに努め、満足に繋がる取り組みが行われています。家族の要望で、管理者との面談が実現した事例があります。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談や職員会議で聞く他、普段から相談しやすい環境である。	2か月に1度開催している職員会議で聞いている。	代表者や施設長、管理者は、職員からの気づきや思いに耳を傾け、業務改善や職員のモチベーション維持に生かしています。各種研修会は職員が主体となって行われ、さらなる知識や技術の習得に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	環境整備としてエアコン、食洗機。介護の二人の為人感センサー（介護ロボット）を導入しています。	介護ロボット導入支援事業費補助金制度を利用し「ベットすわるセンサー」を導入した事により見守り業務の負担軽減となりました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修、ズームでノーリフトの研修、内部研修を行っている。	実践者研修への参加や、介護福祉士などの資格取得のために、職員の協力を仰ぎ勤務表の調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	近隣の施設に見学に行ったり、来たりしている。	他施設の職員が見学に来たり、当施設の職員が、近隣の施設見学に行き交流を持っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に聞き取りしている他、会話を増やし信頼関係を築いている。	笑顔で挨拶をする事。話しかける際は、柔らかい口調で、はっきり、ゆっくりと、視線を合わせて話すことや、様子をしっかりと観察し、言葉以外の小さな変化にも気付けるよう心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価（ユニット共通）	
			実施状況（ユニット1）	実施状況（ユニット2）	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方からの聞き取りや入居後も連絡をとり協力してもらっている。その際、要望など聞いている。	入居直後はご家族も心配や不安もあると思われるので連絡を取った際に様子を報告したり、毎月の請求書と一緒に暮らしの様子を写真でまとめたお便りを同封しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	就労継続支援B型事業所に通っている方がいます。	入居時利用者様本人へ食の好みや趣味嗜好をお伺いしています。ご家族には、利用者様の生い立ちなどをお伺いする調査票にご協力いただき、その中に施設や職員への要望も記入して頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、干し、食器拭き等、出来る事を手伝ってもらっている。	一人ひとりが自分のペースを保ちながら、役割やできることを通して他の利用者様や職員と協働していけるような支援を心がけています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話などでコミュニケーションを取りながら本人の要望を聞き家族にも協力してもらっている。	感染症対策で自由にいつでも面会は出来ていませんが、面会予約をして頂き実施できています。通話で声のお便りを届けたり、毎月の暮らしのお便りでご家族へ日常の様子をお伝えしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内の景色を見に行ったり、サクランボ狩りに出かけている。	気温や天候に気を付けながら、お花見や果物狩り、ドライブしながら外食に出かけています。	家族には、写真にコメントを記した毎月のユニット便りや電話、面会時に利用者の暮らし振りを伝えています。近くの海を見に行ったり、花見やサクランボ狩り、地域の祭り見物などは年間行事として恒例化しており、また、墓参などには家族支援も得られています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	耳の聞こえの問題などある方も居る為、間に入りもめ事が起こらないように努める。	会話のきっかけとして、それぞれの趣味や特技の話題を出したり、耳が聞こえにくい方には、隣でお手伝いをし、周りの方々と交流を持てるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が近隣に転居、入院した場合お見舞いに行ったりしている。	退去した利用者様が近隣の施設へ移動した際は、移動先の職員と連携を取りこちらで出来る情報提供など協力しています。また、移動先へ訪問時には面会させて頂くなど携わらせて頂いています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や要望を聞き把握に努めている。	ご本人、ご家族への聞き取りをし、「今」何が必要かを見極めることに努めています。会話や意思疎通が難しい方でも、日々接する中での小さな変化などを、よく観察し、より良いサービスを提供できるよう努めています。	居室での休憩や、リビングでテレビ観賞やパズルを楽しむ、入浴時の同性介助、入居時に伝えられた好きな食べ物など、出された要望には出来得る限り応じています。思いを伝えることが困難なときも表情や家族からの情報、介護記録から汲み取っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価（ユニット共通）	
			実施状況（ユニット1）	実施状況（ユニット2）	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生い立ち、やアンケートに協力してもらい把握している。	入居時、ご本人への聞き取りや、ご家族に施設独自の調査票にご協力頂き状況を把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録やバイタル管理、スタッフ間の情報の共有をしています。	介護記録、バイタル管理と併せ、日々一人一人の小さな変化にも気付き、職員間で共有することで、より細かな状況把握をしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングをスタッフ間で行い、それを元にケアプランを作成している。	2カ月に1回職員会議を行っています。職員それぞれがケアプランを理解し、統一したサービス提供を心がけています。6ヶ月ごとに更新する介護計画はご家族へも送付し、同意を得て完成しています。状態の変化があれば随時見直しをしています。	介護計画は、定期的更新や状態変化時に作成しています。利用者や家族の生活への意向と、職員間での評価や課題の分析結果を踏まえて支援目標を立案しています。本人の意向を聞き協議を経て就労施設へ通所が叶った事例があります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日記に記入してモニタリングに活かしている。	お一人お一人の介護記録へ記入し、特に難しい状況の際にはケアの方法などを共有し、より良いケアを実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりに合わせた対応をしている。	日々変わる状況に応じ、冷静に対応できるよう、既存のサービスに囚われることなく、柔軟な対応を日ごろから心がけています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の景色を見に行ったり、訪問理美容、病院などに行っている。	近隣の病院への通院介助、町内の美容室に訪問して頂きカットやカラーなどそれぞれに対応しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医に2週間に1回往診していただいている。	主治医の定期往診が月2回あります。処方の有無や特変が無くても全員の診察をして頂いている事で、利用者様の安心を得られているように思います。	希望する受診先を尊重していますが、全利用者は24時間連絡体制の代表者でもある院長の訪問診療を受けています。歯科は医院の送迎により受診できる体制が整っています。他科診療は、家族と協働して支援しており、健康状態は関係者と共有しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は看護職員に相談している。	週2回の出勤日に状態報告や、医師への上申事項の相談をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価（ユニット共通）	
			実施状況（ユニット1）	実施状況（ユニット2）	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や、入院後の経過聞き取りなど医療機関との連携を取っています。	入院時の情報提供や、入院後の経過聞き取りなど医療機関との連携を取っています。また、退院後の注意点なども伺うようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	ここでの生活が困難になった場合でも主治医と連携が取れており、家族と今後を相談している。	日ごろから利用者様のADLなど、ご家族へ報告し、主治医の意見を交えながら方針を検討している。	入居時に重度化や看取りの対応を伝え、利用者や家族の意向を確認しています。院長は、頻繁に来訪して利用者の心身の状況を把握し、家族と情報を共有しています。要望により系列の医療院を最後の住まいとした事例も多くあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成し職員全員に配りいざという時のイメージトレーニングをしている。他にも救急要請の判断練習をしている。	訓練を行い、応急処置に関する資料を揃えている。転倒事故などは、すぐに動かすことで他の危険要因がある事を全ての職員が理解し、適切な対応を出来るようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時には連携している施設からの応援。避難場所は近くの小学校と災害時における社会福祉施設等の相互支援協定書に記載施設への避難する。	近隣の福祉施設と相互協力体制を築いている。	元消防署員の職員が防火管理者を担い、防火対策として地域住民の協力や消防署の指導の下、日中や夜間の火災を想定した避難訓練を実施しています。BCP（業務継続計画）に沿った自然災害の訓練も随時行い、非常時に備えています。	

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生き立ちを知り、その方に合った対応をしている。個人情報については口外しない。	お一人お一人の本来の性格やその日の状態に合わせ言葉選びや、プライバシーに配慮し、個室での会話や、周りに聞こえないようにするなど、相手の立場に立って対応することを心がけています。	研修会で「接客と接遇の違い」「接遇マナー」「プライバシー保護」等を学び、特に排泄や入浴、着替え時は羞恥心に配慮するなど実践に努めています。職員の言動がグレーゾーンであるときは上司が注意喚起を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お誕生日に食べたい料理を聞いたり、本人が希望する過ごし方をしてもらっている。	誕生日の食事はご本人に希望を伺っています。大体の予定で声掛けする入浴もご本人が拒否した場合は別日にしたりと多少の前後に対応できることは自己決定出来るようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	それぞれのペースで過ごしてもらおう。予定していなくても希望があれば入浴している。	食欲が無い時は少し時間をずらし食事提供したり、食事以外の時間は、居家で休む方、リビングでテレビを観る方、パズルなどをされる方などそれぞれ過ごされています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着るものを自分で選んでもらっている。季節に合わない場合声掛けをしている。選べない方にはこれはどうですか？と本人に確認してもらっている。	それぞれに自分で洋服を選んで頂きつつ、職員からその日の気温や天気をお知らせしたり、色の合わせ方などをご提案させて頂いています。個々のお気に入りの洋服でファッションショーレクリエーションも企画開催しました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価（ユニット共通）	
			実施状況（ユニット1）	実施状況（ユニット2）	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本日のメニューを皆さんの見える所に貼りその日のメニューを皆さんで話しています。職員と一緒に野菜の皮むき、食器拭きなどをしてもらっている。	職員が調理している際の味見をして頂いたり、食器拭きやテーブル拭きなどを一緒にして頂いています。苦手なものがある方には代替品にて対応することもあります。	利用者が完食できるよう味付けや盛り付けなどに配慮しています。トマトなど畑の野菜も彩りを添えています。誕生日は要望に応じ、敬老会御膳や秋分の日には利用者とおはぎ作り、ときには職員が模擬店風のラーメンや生寿司を作り好評を得ています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせてカット、刻みで提供している。水分表や糖尿病のある方の血糖値管理をしている。	水分記録や糖尿病をお持ちの方にはジュースをお茶に変更するなどご本人のストレスにならないよう配慮しながら調整をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアしている。就床前は義歯を預かり洗浄しています。	毎食後、歯みがきを実施。自力が難しい方は、義歯を職員が洗うなど介助したり、ガーグルベースをを使うがいをして頂くなど、お一人お一人に合った対応をしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かしてケアしている。	それぞれの排泄パターンを把握し、声掛けを行うことで、排泄の失敗を防げるよう支援している。	利用者の状態により自力でトイレに向かう方の見守りや声かけ誘導でトイレへ、夜間のみポータブルトイレの使用やベッド上で介護用品の取り換えを行っています。利用者の尊厳を損なうことなく可能な範囲でトイレでの排泄を基本としています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食後に牛乳を飲んでもらったり、午前中に体操をしている。	毎朝、ラジオ体操をしています。それぞれ出来る範囲で参加して頂いています。そのほか、座ったままできる足上げ体操なども行っています。排便状況を見ながら、乳製品の取入れや、水分量の調整などもしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	皮膚疾患のある方もいるので考慮しながら一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめる様になっています。	基本的な予定表はあり声掛けをしますが、拒否された場合には別日にしたり、男性職員に抵抗のある女性利用者様は女性職員の介助日に対応するなど調整しています。	入浴は週2～3回を基本とし、介護用の椅子を使用するなど安全性に配慮して同性介助や入浴拒否等も受け入れ、会話を楽しみながら支援しています。シャワー浴は足浴もしながら冷え対策を行っています。入浴後は家族持参の飲料水等で脱水を補っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安や心配事がないか話を聞いたり、室内温度管理などを行っています。	翌朝のお米研いだから？お米あるかしら？と、自宅でしていたことを毎晩心配される方がおられますが、大丈夫ですよと声掛けしたり、買ってあるお米を見て頂き安心して頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食後の服薬はスタッフが確認して本人に渡している。頓服薬に関しては症状を見ながら対応をしている。	基本的な処方内容の把握、処方内容が変更になった際には日誌のほか、外国人スタッフが翻訳、理解しやすいよう職員のグループメールで周知し、それぞれが詳細を確認、内容を把握するよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価（ユニット共通）	
			実施状況（ユニット1）	実施状況（ユニット2）	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝い、ぬりえ、編み物をしたり、他の施設で簡単な作業をして収入を得ている方もいます。	編み物をやられている方や、職員が作った文字合わせ、パズル、YouTubeでの音楽鑑賞を気に入り余暇活動を楽しまれています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じられる様な外出をしています。お盆には家族と一緒に墓参りしている方もいます。	季節を感じられるお花見や果物狩り、夏には海岸を散歩したり、畑のミニトマトを収穫しに行ったり秋には紅葉を見に行き外食など、日常に変化を付けられる努力をしています。	天候と利用者の体調を見極め、周辺や近くの海岸まで散歩、菜園の収穫等で陽射しを浴びています。また、余市祭りや北海ソーラン踊りの見物、サクランボ狩り、桜や紅葉鑑賞、外食等で心地良い刺激に繋がっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来ない方多いので預かりスタッフや家族の方にも協力してもらいながら代わりに行っている。中にはご自身で管理している方もいます。	自己管理が難しい方が多いので、本人の希望を聞き、ご家族へ相談しながら、職員が買い物代行したり、面会時にご家族に準備して頂くなど対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望した時に電話している。手紙が届いても返事が書けない場合は電話してもらっています。	お手紙やはがきが届いた際、返事を書くことが難しい方や、苦手な方が多いので、その時はお電話で対応しています。利用者様からご家族へ電話の希望があった際も対応しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のディスプレイを飾っている。皆さんと作った作品も飾っている。	毎日の清掃で清潔な空間を維持しています。また、リビングには職員手作りのディスプレイなどで季節を感じられる工夫をしています。折り紙などで出来る簡単な作業の時は利用者様にもご協力いただき作成しています。	共用空間には四季折々の飾りつけに風情があり、窓から見える景色と相まって季節が身近に感じられる雰囲気を作っています。心地良い生活空間の中で、利用者が1つのテーブルに集まって談笑している姿が見られません。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの部屋があり。TV前のソファや食卓テーブルが2つ玄関前の廊下にも椅子を置き談笑出来るスペースがある。	リビングにあるソファで一人でくつろいだり、テーブル座席はそれぞれの性格などを考慮し配置していますが時々席を移動したりなどして別のテーブル席同士交流を持てる場を提供しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使い慣れた家具の使用や家族写真、本人の作品（ぬりえなど）を飾っている。	安全を確保した上で、馴染みの家具など使用して頂いています。ご主人様が亡くなられている方は写真の前に毎朝お水をお供えています。	表札を付けている居室には広めのクローゼットが備えられています。テレビやチェスト、1人用のテーブルセット、家族写真などを持ち込み、それらが動線に配慮して置かれており休息できる場となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に表札を付け迷わないようにしている。車椅子用トイレ、一般トイレ、入浴困難な方のシャワー椅子がある。	居室を迷わないように表札を付けたり、暖簾の柄は別々のものになっています。浴室内は浴槽での入浴が困難な方用にシャワーチェアが設置されています。		